

教学半也



ご意見はコチラから

令和8年2月24日

No.22

全ての読者対象

諏訪、上伊那、下伊那の3地区で、初任者研修の締めくくりとなる『プログレス研修』が行われました。「プログレス (progress) : 前進」の意味をもつこの研修では、1年目、2年目それぞれの初任者が、異校種の仲間とグループ協議や所課長講話を通して、自己課題に対する各自の取組を振り返り、解決へ向けての具体について話し合い新たな課題を設定しました。1年次プログレス研修、2年次プログレス研修それぞれの初任者の声を紹介します。

南信地区 1年次プログレス研修 令和8年1月27日 仲間と語り合い、見えた“成長”と“これから”

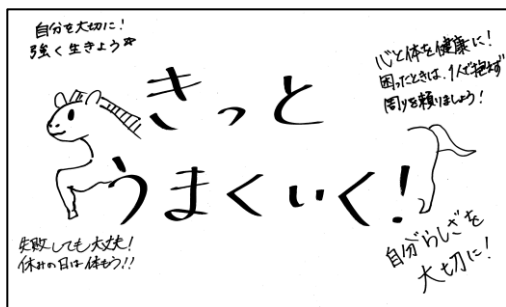
【参加者の感想】



教室が落ち着かないことを子供のせいにしていた自分がいました。前時のふりかえりを子供と共有しながら学習課題をつくったり、単元の目標を立てたりし、そこに向けて子供の取組の様子から臨機応変に構成を見直し修正しながら行っていくという方法もあると学びました。自分が引っ張りすぎていたと感じました。



「個別最適」とはどういうことかについて、グループで話し合いました。教師側が、思っていることと児童が求めていることは違うのでは？という話が出て、はっとしました。答えは、子供の中にあるという視点をもって、授業づくりをしたいです。



子供にあった教材や教具を準備しておくことや、子供の声を拾って授業を進めることが大事だった。日頃から「どの子がどういう発言やつぶやきをしたか」や「どのようなつまづきがあったか」ということを振り返り、子供の反応などを予想できるように、子供を見る力をつける必要があると感じました。



1年目の初任者は、6月の教師力向上研修Ⅰで、主に「授業」に関わる自己課題を決定し取り組んできました。グループ協議では、それぞれの校種、学年で経験したことをもとに、視覚支援としての資料の示し方や指示の出し方、興味を引いた教材や導入の場面など、具体的な事例がアドバイスとしてやりとりされていたことが印象的でした。研修の終わりには、来年度の初任者に向けて応援メッセージを書いていただきました。（短い時間の中で、ご協力をいただきありがとうございました。）ここに込めた思いを大切に、2年目も様々なことにチャレンジして行ってほしいです。

学び続ける姿勢を大切に！

【参加者の感想】

今年度は、「子どもの言葉でつくる授業」が目標でした。「沈黙は怖いかもしれないけど、勇気を出して待つことも大事」と年度当初にもらったアドバイスを意識してきました。「待つ」を意識していたら、子供の反応がよく見えるようになり、「あの子何か言いたそうだけど、まだ思考がぐるぐるしているかな」などと感じるようになり、子どものつぶやきを以前より拾えるようになってきたと感じます。まだまだ、理想の授業にはなっていないので、向上心を持ち続けて授業力をあげていきたいです。



文字入力（ローマ字入力・書き込み入力）に時間がかかる、機材トラブルへの対応等を懸念し、ICTの利用に消極的でした。しかし、グループ協議で、低学年でも使えることやカメラ機能を使うことで振り返りにつながったり、発表の時の視覚支援になったりすることを紹介していただき、有益だと考えられる場面で活用していこうと思いました。



「教える」よりも「学ばせる」という言葉が心に響きました。子どもの力を最大限伸ばすということを大事にしていきたいです。教員の仕事は、すぐに結果が出ないけれど、「生徒を信じる」ことを大切にしたいです。



子どもたちの表情やつぶやき、ちょっとした仕草に気づけるようになると、「この子は今どんなことを考えているんだろう」と思いを巡らすようになり、より子どもを意識してみるようになります。学習に向かう子どもの取り組みを注視していると、授業をもっとよくするヒントが得られることもあります。初任の期間を終えようとしている多くの皆さんが「子どもをよくみる」ことの大切さに気づき、同時に授業改善にむけて新たな挑戦を固めている姿がありました。

毛涯章平先生の『わが教師十戒』に、「教師の力以上には、子どもは伸びない。精進をおこたるな」という一文があります。日々の授業づくりや子どもとの関わりの中で、悩むことや迷うことがあるかもしれません。しかし、その悩みや迷いこそが教師としての成長の源です。指定研修はしばらくありませんが、それぞれの学校で周りの先生方とともに実践を積んだり、自ら研修に参加したりして、学び続ける姿勢を大事にしていきましょう。

【お願い】

来年度以降の「事務所だより」を、先生方のニーズに合ったよりよいものにしていくために、先生方のお声を聞かせていただければと思います。右の二次元コードから、アンケートへの回答にご協力をお願いします。

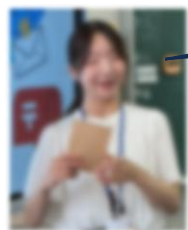


〇〇を使って「伝えたい」を引き出し、既習表現を生かす工夫

～英語科の授業より～

2学期制を実施しているS中学校では、前期と後期でALTの先生が変わります。教科担任のK先生は、1年生の三人称単数現在形を使った表現を学ぶ単元の導入で、新しく着任するALTからの手紙（K先生が作成したもの）を示し、生徒の「伝えたい」を引き出しました。

【単元導入の場面】



手紙を示すK先生

Look! This is a letter from a new ALT.

Hello, I'm ◆◆, a new ALT from October. (省略)

I want to see you and enjoy English classes. **Can you tell me about you and your classmates?**

(手紙から抜粋)

「何を、伝えたいかなあ？」と相談し始める生徒が生まれました。

【Unit Goal】

新しいALTに、クラスのことや友達について紹介しよう！→単元終末に、返信を書く

【単元デザインで大事にしたこと】

※「話す」中心に行った内容を書く活動へ

→既習表現を使って自己紹介文を書く

※やりとりから始まる授業の型

→Small Talk (帯活動) で友達の情報を得る

※既習表現と比較して新出文法のルールに気付き、友達の紹介文を書く活動へ

【キラリポイント！】

★生徒たちにとって身近で日常的な話題を題材にして授業することで、生徒は自分事として考えやすくなります。K先生は、★手紙を用い、その中に★「あなたのことや級友のことについて教えてほしい」という内容の1文を入れました。これにより、何をどう伝えるかを考えるきっかけとなり、既習表現を思い出して使う機会と必要感が生まれ、外国語科の目標にある言語活動を通した学びが実現しました。K先生の★★★を授業づくりの参考にしたいです。

子供の実態を基にした、育成を目指す資質・能力につながる教材の工夫

～保健体育科の授業より～

T中学校のH先生は、「保健体育の学習に苦手意識を持っている生徒も楽しく学習してほしい」と願い、単元前に生徒にインタビューを行っています。ベースボール型の単元では、生徒がルールの複雑さに不安をもっていることを掴んだことから、育成を目指す資質・能力を「ボールを持たないときの守備者の動きを考え、実践する」と決め出すとともに、生徒が意欲的に活動できるように、以下の通り「ティーボール」のルールを簡易化し、単元を構想しました。

守備のルール

○打者をアウトにする方法は次の2つに限定する。

- ①守備用サークル（写真の3ヶ所）にボールを持った人が入る。
- ②打球が地面に着く前に手でボールに触れる。なお、ボールをキャッチできなくてもよい。



攻撃のルール

- 1塁、2塁、本塁の三角ベースにする。
- 打者は打ったら1塁、2塁、本塁の順に守備側がサークルに入るまで回る。
- 進むことができた塁の数を得点とする。
- 次打者になった時に、塁には残らない。
- チームの全員が打ったら攻守交代をする。

単元前、「守備で何をしたらよいか分からない」と不安を抱えていたA生は、単元後半になると仲間が捕球したときに「2塁！」と言いながら仲間に送球する塁を指示するようになり、アウトにできると「やったー」と声を上げて喜んでいました。「ボールを持たないときの動き」を考えながら、仲間と連携した守備を行うよさを感じる姿が見られました。

【キラリポイント！】

生徒の実態に合わせてルールを簡易化し、残塁者をなくし、守備の目的を「バッターの進塁を少なくする」ことに限定したこと、アウトにする方法を2つに限定したことが、守備の方法を易しくし、生徒が「こうすれば早くアウトにできそうだ」という見通しをもって「ボールを持たないときの守備者の動きを考え、実践する」ことにつながりました。

ただ単にルールを簡易化したのではなく、子供の実態から、育成を目指す資質・能力と合わせてルールを考えていったH先生のキラリ☆に学びたいと思います。

子供たちへの周知を
お願いいたします



旅の主役は君だ！

長野県のこと好きな君
長野県のこと もっと知りたい君
仲間と一緒に
見て、聞いて、体験する旅に
出てみない？

【年間実施予定プログラム】

6/6 キックオフ&
グローバル体験キャンプ

7/11 県内企業訪問

8/6 1日海外留学体験
(TGG in 立川)

11/21,22
フィールドスタディ in 関東
(つくば市 JAXAなど)

3/6 未来を語ろう！
提案フォーラム

3/6は、知事も参加予定！

※本事業は令和8年度予算要求中であり、
予算成立後に実施します。

令和8年度新規事業

令和8年度小5～中2の、旅の仲間15名を募集します！

We Are Astra!

アストラ

・Astra
ラテン語で「星々」
地域・世界・人とつながりながら、
長野県の未来を照らす存在になって
ほしいという願いを込めて、本事業
をAstraとしました

～長野県の明日(アス)を切り拓くトラベラーズ～ **参加費無料**

大事な応募条件は

長野県への思い願いを
持っていること

長野県の
こんなところが
好きなんだよな

長野県のこんなことが
もっと知りたいな

長野県の
こんなところを
もっとよくしていきたいな

応募はGoogleフォームまたは郵送で！

<https://forms.gle/Naf8ViBnA5bkSVYq6>

※Googleへのログインが必要です



3/6(金) 応募締切

主催 Astral実行委員会

【Astral実行委員会構成団体】長野県、長野県教育委員会、長野県小学校長会、長野県中学校長会、長野県特別支援学校校長会
信濃教育会、長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会 他、関係団体
【事務局】長野県教育委員会 学びの改革支援課

026-235-7434

kyogaku-gimu@pref.nagano.lg.jp

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/astra.html>

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2

担当 学びの改革支援課義務教育指導係 藤森、大原

